

第 15 回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 12 月 23 日（月）

17 時 30 分～19 時

会場：中野市中央公民館 講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

- (1) 「第 14 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ
- (2) 統合方法について
 - ・新校での職員配置について
 - ・進め方について
- (3) 中野総合学科新校施設整備について
 - ・施設整備事業基本計画策定支援業務委託事業者からの提案書等の説明
 - ・施設整備に係る意見交換
- (4) 新校でのカリキュラム等の構築に向けた検討内容（報告）
- (5) その他

5 その他

<次回の予定>

- ・期日：調整中
- ・内容：施設整備事業基本計画策定の進捗状況 他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

中野総合学科新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名 (○: 座長)	所属等
1	自治体	竹内 敏昭	中野市 副市長
2		久保田 敦	山ノ内町 副町長
3		○柴本 豊	中野市教育委員会 教育長
4		竹内 延彦	山ノ内町教育委員会 教育長
5	産業界	藏谷 伸太郎	信州中野商工会議所 議員
6		中島 弘子	山ノ内町商工会 女性部部長
7	同窓会	斉藤 武美	中野立志館高等学校同窓会 副会長
8		芦澤 孝幸	中野西高等学校同窓会 会長
9	PTA	関 健	中野立志館高等学校PTA 会長
10		青木 正実	中野西高等学校PTA 会長
11		荒井 健悟	中高PTA連合会 (中学校代表)
12		宮澤 昭雄	中高PTA連合会 (小学校代表)
13		寺島 重則	小布施中学校PTA 副会長
14	学校関係者	滝澤 崇	中野立志館高等学校 校長
15		森角 太一	中野立志館高等学校 教諭
16		堀内 和徳	中野西高等学校 校長
17		荒川 英子	中野西高等学校 教諭
18		大塚 秀樹	中高飯水校長会 会長 (南宮中学校)
19		渡邊 浩司	中高飯水校長会 副会長 (高丘小学校)
20		嶋田 和美	上高井郡校長会 (小布施中学校)
21	学識経験者	大日方 悦夫	元県立高等学校長
22	地域	小池 広益	北信地域振興局 局長
23		小林 妙子	山ノ内町
25	生徒	黒岩 佳佐	中野立志館高等学校生徒会 会長
26		川邊 暖太	中野立志館高等学校生徒会 副会長
27		宮入 彩愛	中野立志館高等学校生徒会 副会長
28		宮川 響	中野西高等学校生徒会 会長
29		渡辺 琉之介	中野西高等学校生徒会 副会長
30		阿藤 綾	中野西高等学校生徒会 副会長

事務局

中野立志館高等学校		中野西高等学校		高校再編推進室・施設係・学びの改革支援課	
生田 憲克	全日制教頭	小林 英司	教頭	原 多恵子	(再)主幹指導主事
山本 丈治	定時制教頭	宮尾 久枝		山崎 巖	(再)主任指導主事
森角 太一		島田 味知子		宮嶋 直美	(再)主任指導主事
小林 ちひろ		佐藤 拓哉		貝野 宗司	(施)主事
清水 潔		荒川 英子		塚田 武明	(学)主任指導主事
阿部 佳代子					

第 14 回 中野総合学科新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 6 年(2024 年) 7 月 29 日(月曜日)18 時 00 分～19 時 30 分		
場 所	中野立志館高等学校 大講義室		
出 席 (敬称略)	竹内敏昭、久保田敦、柴本豊、竹内延彦、藏谷伸太郎、中島弘子、芦澤孝幸、関健、青木正実、荒井健吾、宮澤昭雄、寺島重則、滝澤崇、森角太一、堀内和徳、荒川英子、大塚秀樹、渡邊浩司、嶋田和美、大日方悦夫、小池広益、佐藤奏夢、黒瀬漣 (以上 23 名)		
欠 席 (敬称略)	斉藤武美、小林妙子、那須文太、池田愛美、小林壱吹、小山莉奈 (以上 6 名)	傍聴者	12 名(内オンライン 3 名)、マスコミ 2 社
事務局	中野立志館高校	生田教頭(事務局長)、森角教諭、小林教諭、清水教諭、阿部教諭	
	中野西高校	小林教頭(副事務局長)、宮尾教諭、島田教諭、荒川教諭	
	県教育委員会	原主幹指導主事、山崎主任指導主事、熊谷担当係長、貝野主事	
当日資料	次第、構成員名簿、第 13 回懇話会まとめ、アンケートまとめ、NSD プロジェクト～中野総合学科新校～、NSD 概要版		

会議事項

- (1) 第 13 回懇話会まとめ
- (2) NSD(長野県スクールデザイン)プロジェクトについて
- (3) 統合方法について
- (4) その他(懇話会開催時間の変更について)

主な内容(要旨)(・質問 ⇒事務局回答)

- (1) 「第 13 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ(承認)
 - (2) NSD(長野県スクールデザイン)プロジェクトについて
 - プロポーザル実施要領(趣旨、整備対象棟、審査員等)、スケジュールについて説明
 - ・プロポーザルの審査員がすべて大学教授であるが、長野県在住の方のご意見があれば長野県らしさが出るのではないかと。審査員の選考基準はどのようになっているか。
 - ⇒専門性を重視し選考している。学校建築や ICT 教育の第一人者の方、地域を研究されている方等を選考した。また、東日本大震災や能登半島地震の復興に深く関わっており、建築と行政の両方の立場に精通した方に事務局アドバイザーとなっていただいている。
 - (3) 統合方法について(意見交換)
 - 第 1 期再編(中野立志館高校)での統合方法、教育課程、クラブ活動、募集学級数について説明
 - ・年次統合での教員の兼務について説明があったが、管理職についてはどうか。
 - ⇒一斉統合ではその段階で新校の管理職となるが、年次統合の場合は一般的にはそれぞれの学校に管理職が残る。また兼務という形になる場合もある。(第 1 期再編の状況を確認し再回答)
- <ご意見>
- ①両校代表生徒
 - ・それぞれの学校に入学した以上、そこで卒業することがよいのではないかと思います。前回は年次統合に賛成だったが、新校のクラス編成が 7 クラス程度と聞いて、クラス数が増えるとなれば交流の機会も増えるので、学校生活を楽しむためには一斉統合の方がよいと思うようになった。
 - ・中野西高校と中野立志館高校でカリキュラムが全然違う。教員が兼務するとしても、授業科目では専門的なところがあるので、それを受け持つ先生がいるのか不安がある。
 - ②PTA 連合会関係者
 - ・一斉統合の方がよい。クラス数が増えるため、交流が増え、学校行事等も充実した生活を送ることができる。文化祭

等も大勢でやった方が楽しい。

- ・高体連の大会に、一斉統合なら1つの名前でも出場できるが、年次統合では合同になるということで、合同チームを嫌がる生徒もいることを考慮してほしい。
- ・年次統合の方が、メリットが大きい。一斉統合であるとカリキュラムを含め、いろいろ問題点があるのではないかと。
- ・配布資料から考えると、一斉統合の方が、デメリットが大きい。総合的に見れば立志館高校で実績のある年次統合の方がよい。ただし、いろいろなイベント、文化祭や卒業式などは子ども中心に考え、コミュニケーションの場、交流の場を設け、子どもたち自身がそういう場を作っていくように今後検討してほしい。
- ・現在、多くの生徒が4年生大学へ進学している。一斉統合となった場合、カリキュラムの違いもあるが、その後の進路が大きく変わってくるのではないかと心配している。総合学科になって普通科の学びができなければ、4年制大学へ行きたい地元の子どもたちが他地区の高校に行ってしまうのか心配であり、年次統合の方がよいのではないかと感じている。

③中学校関係（中学校長会長）

- ・一斉統合の場合には、開校前に新校のカリキュラムを行うことになる。自分の次のステージを見越して高校へ進学するが、転校でカリキュラムが変われば本当の意味でキャリア教育の目指している部分から外れてしまうことが心配。年次統合では徐々に生徒が減っていくことになるが、何を一番大事にしなければいけないかということを考えてほしい。
- ・中学校で感じることは、生徒も保護者も教員も20年先、50年先の見通しをもつことができていない状況であるということ。子どもの数が減り、合同でやっていかなければならないというところを含めて中学校サイドは進路指導をしていかなければならない。メリット、デメリットもあるが、早めに決断していただき、現実を理解していくという方向で進路指導をしていく必要があると感じている。

④高校関係（校長）

- ・飯山高校での統合を経験し、新飯山高校と飯山北高校の最後の3年生やクラブ活動の様子を見てきた。それらを経験値として持ちながら、今後の生徒のことを考えていきたい。加えて、現実的に教室のキャパなどの施設面も考慮する必要がある。大切なことは新校が始まって交流を深めていくこと。どちらの学校の生徒にとっても自分たちの後輩だという気持ちを持ち続けられるような活動が求められる。
- ・年次統合であれば年度ごとに生徒が少なくなっていくという状況がある。生徒の活動や気持的な部分をフォローしていくことが必要。生徒は理念や目標をもってそれぞれの高校へ入学してきており、次のステップへ向かいたいという気持ちに応えられるような教育活動を行っていく必要がある。逆に生徒の立場からすると、それを残してほしいというところがあるのではないかと。生徒の卒業後の次のステップに向けた学びを保障するような状況を作っていかなければならない。両校の生徒にとってどのような状況にあっても、それぞれの学校の良さを活かしているような状況を作り出していくことが必要と考える。

<まとめ>

- ・いろいろな意見が出されたが、統合方法については一斉統合が良いのか、年次統合が良いのか、この段階で判断することが難しいため、次回以降の懇話会で改めて進め方も含めて検討する。

(4) その他（懇話会開催時間の変更について）

- 高校生が参加していることから開催時間について考慮すべきではないかとの構成員からご意見をいただいた。次回懇話会から開始時間を30分早め、開催時間を17時30分から19時までとしたい。（承認）

その他

【次回懇話会】

- ・期日：10月または12月（予定）
- ・日時、内容等の調整が済み次第、開催通知にてお知らせする。

中野総合学科新校の統合方法について（意見交換まとめ）

【一斉統合】

○学校生活・部活動

- ・一斉統合にしないと、最後は3年生だけ残ってしまい、学校が寂しいものになる。部活でも大会に出場ができないようなことであれば可哀そうである。一斉統合が良いと思う。
- ・一斉統合では、生徒数が増え文化祭など楽しいと思う。貴重な経験になる。年次統合では生徒が減って行って、寂しいと思う。
- ・一斉統合が良いと思います。理由は、年次統合になると部活動が縮小されてしまうことや、中野西高校の最後の2年生、3年生は後輩がいない学生生活になり、可哀そうな感じがします。
- ・一斉統合がいいと思いました。人数は多くなるかと思いますが、中野西高校の広い校舎に3年生だけが取り残されるのは苦しいものがあると思います。
- ・一斉統合の方がよい。クラス数が増えるため、交流が増え、学校行事等も充実した生活を送ることができる。文化祭等も大勢でやった方が楽しい。
- ・それぞれの学校に入学した以上、そこで卒業することがよいのではないかと思い、前回は年次統合に賛成だったが、新校のクラス編成が7クラス程度と聞いて、クラス数が増えれば交流の機会も増えるので、学校生活を楽しむためには一斉統合の方がよいと思うようになった。
- ・高体連の大会に、一斉統合なら1つの名前でも出場できるが、年次統合では合同になるということで、合同チームを嫌がる生徒もいることを考慮してほしい。

○学び

- ・中野西高校と中野立志館高校でカリキュラムが全然違う。年次統合では、教員が兼務するとしても授業科目には専門的なところがあるので、それを受け持つ先生がいるのか不安がある。
- ・一斉統合での転校に伴って、中野西高校の方で総合学科のカリキュラムに合わせなければならないとのこと。総合学科での多様な学びのなかで普通科の学びも可能ではないか。

【年次統合】

○学び

- ・中野西高校の生徒として最後卒業したいと思う。入学する時の目的や意志があって、その高校に入学したと思うので、最後はその学校で卒業を迎えたいと思う。
- ・年次統合が良いと思います。生徒の学びと進路にも影響してくるのが心配です。
- ・カリキュラムの問題を考えても、年次統合が良いと思う。
- ・年次統合の方が、メリットが大きい。一斉統合であるとカリキュラムを含め、いろいろな問題点があるのではないかと。
- ・現在、多くの生徒が4年生大学へ進学している。一斉統合となった場合、カリキュラムの違いもあるが、その後の進路が大きく変わってくるのではないかと心配している。総合学科になって普通科の学びができなければ、4年制大学へ行きたい地元の子どもたちが他地区の高校に行ってしまうのではないかと心配であり、年次統合の方がよいのではないかと感じている。

○その他

- ・配布資料から考えると、一斉統合の方が、デメリットが大きい。総合的に見れば立志館高校で実績のある年次統合の方がよい。ただし、いろいろなイベント、文化祭や卒業式などは子ども中心に考え、コミュニケーションの場、交流の場を設け、子どもたち自身がそういう場を作っていくように今後検討して行ってほしい。
- ・一斉統合の場合には、開校前に新校のカリキュラムを行うことになる。自分の次のステージを見越して高校へ進学するが、転校でカリキュラムが変われば本当の意味でキャリア教育の目指している部分から外れてしまうことが心配。年次統合では徐々に生徒が減っていくことになるが、何を一番大事にしなければいけないかということを考えてほしい。

【質問・要望】

○第13回懇話会

- ・中野実業高校と中野高校を統合した時の状況も示してもらいたい。
- ・年次、一斉、それぞれのメリットとデメリットについてさらに教えていただきたい。
- ・統合高校の部活の大会参加について周知をお願いします。
- ・会の中でもお話があった様に、生徒、先生方の配置バランス等、まだ少し議論することが必要と思いました。中野実業高校と中野高校の統合時の問題を踏まえながら進めていくと良いと思います。
➡第14回懇話会で説明

○第14回懇話会

- ・年次統合での教員の兼務について説明があったが、管理職についてはどうか。
➡第1期再編の状況を確認し、第15回懇話会で回答（予定）

○広報・周知

- ・新校開校に向けた広報を早い時期に始めてもらいたい。入学後のことなど、保護者にも説明してもらいたい。子どもと一緒に進路をきめるプロセスをしっかりとってもらった方がよい。
- ・会でも話したが、親や地域への情報発信は前倒しで、できるようにしてほしい。

○今後

- ・中学校で感じることは、生徒も保護者も教員も20年先、50年先の見通しをもつことができていない状況であるということ。子どもの数が減り、合同でやっていかなければならないというところを含めて中学校サイドは進路指導をしていかなければならない。メリット、デメリットもあるが、早めに決断していただき、現実を理解していくという方向で進路指導をしていく必要があると感じている。
- ・飯山高校での統合を経験し、新飯山高校と飯山北高校の最後の3年生やクラブ活動の様子を見てきた。それらを経験値として持ちながら、今後の生徒のことを考えていきたい。加えて、現実的に教室のキャパなどの施設面も考慮する必要がある。大切なことは新校が始まって交流を深めていくこと。どちらの学校の生徒にとっても自分たちの後輩だという気持ちを持ち続けられるような活動が求められる。
- ・年次統合であれば年度ごとに生徒が少なくなっていくという状況がある。生徒の活動や気持的な部分をフォローしていくことが必要。生徒は理念や目標をもってそれぞれの高校へ入学してきており、次のステップへ向かいたいという気持ちに応えられるような教育活動を行っていく必要がある。逆に生徒の立場からすると、それを残してほしいというところがあるのではないか。生徒の卒業後の次のステップに向けた学びを保障するような状況を作っていないか。両校の生徒にとってどのような状況にあっても、それぞれの学校の良さを活かしているような状況を作り出していくことが必要と考える。

新校でのカリキュラム等の構築に向けた検討内容 (中野立志館高校・中野西高校での検討内容)

1 進学から就職まで、幅広いニーズに応えるための学びについて（幅広い生徒の進路保障）

- ・ 1年次の学び、科目選択を取り入れるのか、入れないのか 等

(1) 進学への対応

- ・ 進学希望者に対して1年次から科目選択を取り入れる
- ・ 大学入試での共通テストに対応できるカリキュラム
- ・ 1年次の理科の必修選択科目を「科学と人間生活」と「生物基礎」が選択できることで進学と就職に対応
- ・ 進学希望者のための「コース制」の導入
- ・ 大学進学層を想定した特進クラスをつくる
- ・ 中学校へ向けて、少人数の進学対策もしていることを発信

(2) 設置科目や科目選択等について

- ・ 入学時の段階で進学か就職か定まっていない生徒が多いため、1年次は普通科目を多く履修し、基礎学力を固める方がよい
- ・ 他校の単位互換等を考えると必履修科目を多くした方がよい
- ・ 中学校の学び直し場を設ける
- ・ 「工業」「商業」「進学」に適応しているため中野立志館の教育課程をベースにした方がいい
- ・ 進学、就職の両方に力を入れることを考えると、1年次からある程度の選択科目など（コース制も含めて）取入れることも必要ではないか

(3) システム

- ・ 1年次から2年次でのクラス替えの導入
- ・ ある程度の方向性を持った入学がよい
- ・ 前期後期制に戻し、全部が体験できるような授業を前期でクラスごと回すなどできれば、後期には工業・商業・福祉・進学・スポーツ・家庭など方向性を持った選択授業ができるのではないか
- ・ 講座人数が一桁の講座を毎年開講することは、職員の働き方に偏りが生じ、定数と時間数の限界を感じる
- ・ 留学しやすい制度
- ・ 定時制含め、どこからでも単位がとれ、卒業に必要な単位以上に好きなだけ学べる

2 新校での学びについて（特に「農業の学び」「地域産業と連動する学び」等）

(1) 農業の学び

ア 全般

- ・ 農業はとても大事なので、そのことを感じさせる授業を取り入れてほしい
- ・ 指導する教員や農地が確保でき、入学してくる生徒にとって、ここに来ればこれが学べるということが明確になれば、農業大国・中野市にとっては必要な学びなのではないか
- ・ 現在の「工業・商業・福祉」の学びは地域との関連から継続し、農業の学びはなくてもよい
- ・ 中野市にあった農業高校がなくなったり、農業高校からそのまま就農する生徒はほとんどいない現状で農業課程をスタートして大丈夫か

イ 内容

- ・ えのき工場での実習やバラを育てるなど
- ・ 中野立志館高校が行っているような地元の農業とコラボした商品開発など、農業との関わった探究学習でもよいのではないか
- ・ 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」で、市役所、JA、地元農家からの講話や農業体験等を行い、地元の農業について理解を深める程度が理想だと感じる

ウ 施設・設備、教員・指導者

- ・環境整備、指導員の確保の面で現実に厳しい
- ・圃場だけでなく、他の施設、機械も必要であり無理ではないか
- ・農場を持たない農業教育はイメージできない
- ・中野立志館高校では農業系科目を設置したが、人材、農地、設備が不十分であった
- ・農業は講師(地元の農家の方など)を自治体から派遣してもらえるとよい
- ・中野には、地域の財産(人、産業、歴史)が豊富であり、地域の方に関わってもらいたい
- ・検討段階から専門家を連れてくるべき
- ・農業の学びを行うのであれば、教員定数が1名となるような授業時間数を確保すべき
- ・農場で何かを栽培するような農業を行うのは、施設や教員配置等で難しいのではないか

(2) 地域産業と連動する学び

ア 内容

- ・土びな体験
- ・「地域産業と連動する学び」は、まさに工業・商業・福祉なのかと思う
- ・一定レベル以上の知識や技術、能力が備わる学びができる環境を整えることが必要
- ・普通教科でも地域産業と連携して学ぶことは可能
- ・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を有効に活用する
- ・農業分野はもちろん、外国人観光客等の観光業、精密・光学産業分野、歴史分野、音楽分野など、地域と連携して学べる分野は多岐にわたっている
- ・共学共創コンソーシアムを起点にコーディネーターと共に社会と学校を結びつけ、大学入試にも生かせる探究学習を行っていく
- ・「地域産業と連動する学び」を希望する生徒がどれだけ入学してくるのか疑問

イ システム

- ・卒業単位 74 単位として空き時間などを活用する
- ・中実からの地域とのつながりを感じられる専門科目を2年次から設置
- ・各専門科で地域企業と連携をとりながら、企業主体で職業体験や研究を積極的に、協力的に行ってもらえないか
- ・長期的に多様な学びを提供できる施設設備、教員の配置と確保が必要

3 その他

(1) 全般

- ・制服は不要(地球沸騰化時代、体調管理のために、自分で服装は決められるように 等)
- ・ゲートキーパー的役割も求められている特別支援教育
- ・部活動の合同チームを早い段階から組織していきたい
- ・ユネスコスクールでの活動や探究については、現在の中野立志館高校の学びと通じるものがあり、うまく発展させていってほしい
- ・現在の立志館が掲げる『志高く』の基本理念は踏襲してほしい
- ・一人一人に目を向けられる教育環境
- ・工業も福祉も商業も好きなものをアラカルトに選択できる
- ・中学生・保護者、地域から何を期待されているか、過去のアンケートから考えるべき
- ・「何でも学べる学校」とは、「何も深く学べない学校」ということだと思う

(2) 施設整備

- ・キャンパス内を公道に出ずに車両等が周回できるような使い勝手の良いキャンパス
- ・図書館や相談室、学習室等、生徒が過ごせる部屋がほしい
- ・体育施設の老朽化対策を考えてほしい。
- ・中野立志館高校の第2グラウンドは手狭であることや、電車や工場等が隣接していることを考えると中野西高校のグラウンドを使用した方がいいのではないか